

Slovenia Monthly October 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年11月13日



～10月の主なポイント～

政治： 大統領選挙：第1回投票結果では、いずれの候補も過半数獲得ならず。

(速報) 決選投票では、パホル大統領が52.94%の得票率を獲得し、僅差で勝利。

スロベニア・クロアチア国境画定問題：

ツェラル首相及びプレンコビッチ首相、首脳レベルでの対話実施に向けた準備に合意。

経済： マグナ・シュタイヤ社、建設許可を取得し、マリボル近郊で塗装工場の建設を開始。

社会： スロベニア北西部のユリアンアルプス、旅行ガイド「Lonely Planet」観光先トップ10に選出。

政治

【スロベニア大統領選挙】

●第1回投票の結果【22日】



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

22日、6回目となる今次スロベニア大統領選挙では、現職のパホル候補を含む9名が立候補し、第1回投票における各候補者の得票率は以下のとおりであった。

1. ボルト・パホル候補 47.08%
2. マリヤン・シャレツ候補 24.96%
3. ロマナ・トムツ候補 13.74%
4. リュドミラ・ノヴァク候補 7.15%

5. アンドレイ・シシュコ候補 2.22%
6. ボリス・ポポヴィッチ候補 1.79%
7. マヤ・マコヴェツ・ブレンチッチ候補 1.72%
8. スザナ・ララ・クラウセ候補 0.77%
9. アンジェルカ・リコヴィッチ候補 0.58%

いずれの候補も有効投票総数の過半数を得ることができなかったため、11月12日に上位2名のパホル候補及びシャレツ候補による決選投票が実施される。

●決選投票の結果【11月12日(速報)】

11月12日、大統領選挙の決選投票が実施されたところ、12日21時35分現在の速報は以下の通り。

| | |
|-------------|--------|
| ボルト・パホル候補 | 52.94% |
| マリヤン・シャレツ候補 | 47.06% |

結果を受けて、パホル大統領は、民主主義を信じて投票した有権者に感謝し、またシャレツ候補の健闘を讃えた上で、「スロベニアの全ての国民の大統領として従事することを誓い、引き続き国民の団結を目指すとともに、今後は重要課題に関してより頻繁に立場を述べるよう努める」と抱負を述べた。シャレツ候補は、今回の僅差の結果はスロベニアにおいて新世代による政治の時代が近づいたことを示したと

して、彼を支持したすべての有権者に対して感謝の意を表した。

ツェラル首相はパホル大統領の2期目の就任を祝し「スロベニアの利益のためお互い生産的に協力していけるよう期待する」と述べ、また、ブルグレス国民議会議長は、同大統領に対して「知恵と勇気、全ての国民のための働きを祈念する」と祝辞を述べた。

なお、投票率は41.74%と第1回投票(44.24%)を下回り、史上最低を更新した。

パホル大統領の現任期は12月22日迄であり、次期の任期は12月23日から開始される予定。

【内政】

●病院に対して1億3600万ユーロ支出【5日】

5日、政府は2017年及び2018年予算導入法案を承認し、国立病院の債務負担を軽減するために1億3600万ユーロの補助金を支出することとなった。同補助金は先月議会を通過した特別緊急法のもと税収入によって賄われ、主に経済危機の時代に蓄積された病院の損失の80%をカバーすることとなる。なお、病院側は、補助金の受給と引き替えに、保健省の諸委員会による監督が強化され再建計画の導入が求められる。

●ロマ人コミュニティ住居地の開発を承認【18日】

18日、政府はロマ人コミュニティが違法に居住するスロベニア南部ノヴォメスト地域のジャブヤク・ブレジエ(Žabjaky-Brezje)居住地を全面開発することを承認した。総額310万ユーロの同計画では、居住地における既存の住居を合法化したうえで、地域のロマ人を雇用し新たに住宅140戸・公共施設5棟を建設、上下水施設・街灯等を整備する。カンタルティ経済開発・技術副大臣は、同計画がロマ人コミュニティの生活改善のため事業として他地域でも活用できる良い例となることを期待すると述べた。なお、スロベニアには現在7000人から12000人のロマ人が居住していると推計される。

スロベニアに迫る！ 56

大統領官邸、芸術と歴史の場所



スロベニア大統領が執務している大統領官邸は、19世紀後半のネオ・ルネサンス建築の邸宅であり、建物自体の価値に加えて、最も評価の高い美術作品が飾られていることから、199

3年には文化財として登録されました。ルドルフ・バウアー(Rudolf Bauer)によって設計された同官邸は、1897年、リュブリャナ大地震に襲われた2年後に建築が開始され、1899年にオープンしました。正面玄関はウィーンの彫刻家ジョゼフ・バイヤー(Josef Beyer)によって造られた「権力」と「法」を象徴する2つの彫像によって飾られています。



同官邸は、1918年まではオーストリア・ハンガリー帝国のカルニオラ公国政府の建物でしたが、ユーゴスラビア王国の下では政府とリュブリャナ市長が使用し、第二次世界大戦後はユーゴスラビア社会主義連邦共和国の構成国であったスロベニア社会主義共和国政府の所在地でした。1975年以降、大統領評議会のスロベニア大統領の大統領府として使用が開始され、スロベニアが独立した2年後にスロベニア共和国の大統領府となりました。



3階建ての建物は新ルネサンス様式で建設され、2つの中庭があり、もともとチャペルであり第2次世界大戦中は政府の会合に使用されたクリスタルホールは、今では様々な式典に使用されています。官邸内部には、現代の画家ゴイミル・アントン・コス(Gojmir Anton Kos)によるスロベニアの歴史を描いた絵が掛けられています。

大統領の執務室には、国立博物館が管理する政府所有のコレクションから現実主義派イヴァナ・コビルツァ(Ivana Kobilca)、印象派イワン・グロハル(Ivan Grohar)とリハルド・ヤコピッチ(Rihard Jakopič)、近代主義



派フランツェ・ミヘリッチ (France Mihelič) とゾラン・ムシチ (Zoran Mušič), 彫刻家ストヤン・バティッチ (Stojan Batič) などの芸術作品が飾られています。
(Photo: Office of the President)

【外政】

●ブルグレス議長、エストニア国会議長と会談【3日】

3日、ブルグレス国会議長は、スロベニアを訪問中のネスター・エストニア国会議長と会談し、両者は、価値観や多くの問題において共通の立場を共有する両国には一層の関係強化の余地があるという認識で一致した。他方、ネスター議長が、ロシアとの問題解決に向けた努力に際しNATO諸国との連帯と協力が必要であり、バルト地域に展開するNATOの兵士は同地域のみならずEUの共通の価値観を防護していると述べたのに対し、ブルグレス議長は、スロベニアはロシアとの間で伝統的に良好な関係を有していると述べた。

●ツェラル首相、ICANのノーベル平和賞受賞についてコメント【6日】

6日、スロベニア外務省は、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞を受け、スロベニアはICANの努力を評価しているものの、段階的な核軍縮を支持しているとの立場を表明した。ICANは、先般、国連総会における核兵器禁止条約の採択に大きく貢献したことで知られているが、ツェラル首相は、同条約の目標は賞賛されるべきだが、幾つかの条項は急進的で現実的ではないとして批准しないとの考えを表明している。9日のスロベニア国民議会外交政策委員会においても、同条約の署名を進言する左派勢力の提案を否決した。

●エリヤヴェツ外相、ロシア訪問【12日、13日】

12日、2日間の日程でロシア訪問を開始したエリヤヴェツ外相は、ラブロフ・ロシア外相と会談し、二国関係を中心に意見交換を行った。同会談において両外相は、経済・文化分野協力、国際場裡での建設的な協力の進捗を歓迎した。また、両外相は、中東及び朝鮮半島情勢等の国際情勢、西バルカン情勢や地域の国境問題等についても意見交換を行った。

13日、エリヤヴェツ外相及びニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣との共同議長の下、貿易経済科学協力委員会の会合が開催され、二国間の経済協力及び重要案件35件の進捗状況につき協議した。ま

たエリヤヴェツ外相は、ロシアのオンラインメディア「Sputnik」に対して、「スロベニアはロシアから年間8億3千万m³の天然ガスを購入しているが、同購入契約を5年間延長する方向で調整しており、契約は年末又は年始に予定されているツェラル首相のロシア訪問のタイミングで署名される可能性がある」と述べた。

●米国、イスラエルのユネスコ脱退に憂慮【13日】

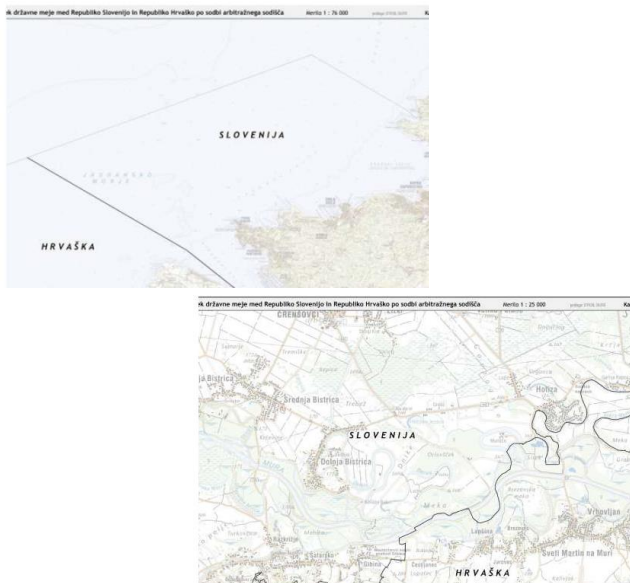
13日、スロベニア外務省及び教育・科学・スポーツ省のユネスコ部は、米国及びイスラエルのユネスコ脱退決定は国家間の平等な協力を基礎とする多国間協力のシステムの強化に繋がるものではないとして、憂慮の念を表明した。一方で、スロベニア政府は、両国のユネスコにおけるステータスの変更後も、両国との間の実質的な協力の継続を期待するとの考えを示した。また、スロベニアはユネスコ執行委員会の委員国として、ユネスコの活動を引き続き積極的に促進していくとの立場を確認した。

●スロベニア・クロアチア国境画定問題にかかる動き【16日、17日、20日】

16日、スロベニア政府は、仲裁裁判所による最終裁定を反映した対クロアチア国境の地図を公表した。測量・地図庁が作成した地図は陸上及び海上の国境線の詳細を明示した48枚からなり、仲裁裁定の履行における技術的なベースとなるもの。両国が合意すれば、現地の実態により則した地図を採択する可能性もある。専門家によれば、今後導入プロセスが開始された場合、650kmの国境沿いに境界石を敷き、座標の記録を完了するまでに少なくとも数年を有する。

17日、ツェラル首相は、プレンコビッチ・クロアチア首相に書簡を送付し、最終裁定の履行を開始するための対話を再開し、共通の解決策を模索するよう呼びかけた。クロアチア政府は、スロベニア通信(STA)に対し、仲裁裁判に関する従来の立場を繰り返した上で、本件問題を二国間協議で解決したいとして、プレンコビッチ首相によるツェラル首相へのザグレブ訪問招請は引き続き有効であるとの立場を表明した。

20日、EU首脳会合出席のためブラッセルを訪問したツェラル首相は、同会合のマージンにおいてプレンコビッチ・クロアチア首相と会談し、両首相は、最終裁定に対する立場の違いはあるものの、首脳レベルでの対話実施に向け準備を行っていくことで合意した。



(Photo: スロベニア政府)

●エリヤヴェツ外相、スペイン外相と会談【16日】

16日、EU外相理事会に出席したエリヤヴェツ外相は、ダスティス・スペイン外務・協力相と会談し、カタルーニャ州の分離・独立問題につき意見交換を行った。エリヤヴェツ外相は、スロベニア国民議会のEU委員会及び外交政策委員会が、国際法は遵守されるべきとしつつも民族自決権を支持したことを受け、スペイン政府はスロベニアがスペインの法的枠組みを超えた立場を決定することを懸念していると述べた。エリヤヴェツ外相は、正当な法的枠組みに基づき、マドリッドとバルセロナの間での対話が行われることに期待を表明した。

27日、スロベニア外務省は、カタルーニャ州議会が独立宣言を採択し、スペイン上院が同州の自治権を一時的に停止したことを受け、スロベニアは全ての民族の自決権は、普遍的且つ剥奪不可能な権利であるとの立場を提唱しているとしつつも、それは民主的なスタンダードに基づき、スペインの国内法及び国際法に沿った合法的手段を用いて行使されるべきであるとの立場を表明した。また、外務省は、カタルーニャ州の問題は憲法の枠組みの中で、平和的且つ基本的権利と自由の完全な尊重を確保した上で、対話により解決策を見出していくことが必要であるとの立場を示した。

●エジプト外相、スロベニアを訪問【17日】

17日、スロベニアを訪問したシュクリ・エジプト外相は、エリヤヴェツ外相と会談し、経済関係を中心とした二国関係強化、中東情勢、難民問題及びEU・エジプト関係等につき意見交換を行った。エリヤヴェツ

外相は、新たに設置された合同経済員会が、二国間貿易の強化に貢献することへの期待を表明し、シュクリ外相は、スロベニアの投資家に対して人口1億人の市場でのビジネスチャンスを探索するよう呼びかけた。その他、両国はスポーツにおける協力に関する覚書に署名すると共に、スロベニア通信(STA)と中東ニュースエージェンシー(MENA)との間でも協力に関する覚書が署名された。

●アフリカ・コーディネーターを任命【18日】

18日、政府は、元駐ベルギー大使のシンコヴェツ(Matjaž Šinkovec)大使をアフリカ・コーディネーターとして任命した。新規に設立された同ポストは、アフリカに関する各省庁の事業を調整し、アフリカ諸国との二国間・多国間協力事業に関する政策立案等を担う。現在、スロベニアはアフリカ大陸においてカイロに大使館を有し、南アフリカに名誉総領事がいるのみである。外交政策戦略において、アフリカが重点地域として指定されている中、アフリカにおける市場開拓が今後の課題の一つとなる。

●ルクセンブルク外相、スロベニアを訪問【24日】

24日、エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問したアッセルボーン・ルクセンブルク外相と会談し、両国間の良好な関係を確認すると共に、二国間協力強化及びEUの未来等につき意見交換を行った。両外相はEUの未来は団結及びより一層の連携を基礎とすべきであるとの考えで一致し、アッセルボーン外相はEUがBrexit及び難民問題に対処していくことが出来ることを確信していると述べた。二国間経済関係につき、エリヤヴェツ外相は昨年の投資額でルクセンブルクを上回ったのはオーストリアのみであると述べ、更なる協力強化に期待を表明した。また、両者はクロアチアとの国境線画定問題についても意見交換を行い、アッセルボーン外相は国際法及び国際法廷の判決の尊重は重要であると述べた。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●インフラ大臣、中国訪問【27日】

27日、中国を訪問中のレーベン・インフラ省副大臣は、王志清(Wang Zhiqing)中国民間航空局副局長と会談し、4ヶ月前のガシュペルシッチ・インフラ大臣による中国訪問の際協議した両国間の航空ルート開設等にかかる協議のフォローアップ協議を実施した。インフラ省によれば、中国側は両国間の定期航空便開設に向けたイニシアティブに前向きであり、留保事項はないとの考えを示した。また、同副大臣が中国企業の経営するマリボル空港の拡大ポテンシャルにつき説明したのに対し、中国側はスロベニアにおける民間航空事業開発のイニシアティブを歓迎すると共に、必要であれば技術的支援を実施する用意があるとの意向を表明した。

経済

【マクロ経済・統計】

●IMF、スロベニア経済成長率を4%と予測【10日】

11日、国際通貨基金(IMF)は、今年のスロベニア経済成長率の予測値を3%から4%に引き上げ、また、来年の成長率は2.5%に減速すると予測した。本年の予測インフレ率は1.6%、失業率は6.8%。なお、世界経済全体の成長率は3.6%、ユーロ圏の成長率は2.1%と予測した。IMFは各国に対し、この好調な経済成長のトレンドが続いている間に生産活動や利益配分にかかる課題に取り組む、将来起こり得る経済リスク回避のための経済基盤を強化することが望ましいと提言した。

●財務大臣、世界銀行・IMF年次総会出席【15日】

15日、エルマン(Ms. Mateja Vraničar Erman)財務大臣は、世界銀行・IMF年次総会に出席し、スロベニア経済において構造改革及び公的債務の削減に取り組むことの重要性を認識しているとした上で、2018年及び2019年の予算案はまさにその課題に対する取り組みを加味したものだと説明。また、同大臣がモスコヴィチ(Mr. Pierre Moscovici)欧州・経済財政委員会委員と会談した際、モスコヴィチ委員がスロベニア経済が加熱し過ぎていると指摘し早急な公的債務の削減を実施するよう提言したのに対し、エルマン大臣は、好調なスロベニア経済が現在加熱し過ぎているとの認識には同意せず、より緩やかな構造改革が適していると述べた(当館注: 2016年末現在、スロベニアの公的債務GDP比は80.9%)。

【金融・企業関係】

●2030年以降のディーゼル車・ガソリン車の登録禁止【12日】

12日、政府は、2030年以降、新規ディーゼル車及びガソリン車の登録を禁止する代替燃料戦略を承認した。禁止対象外となるのは、CO₂排出量がキロメートルあたり50グラム以下の車両であり、現時点では電機自動車及びハイブリッド車がこの条件を満たす。また、同戦略文書によると、国内の代替燃料用の充電所を現在の227カ所から、2020年には1200カ所、2025年には7000カ所、2030年には22,300カ所に拡大する計画。

2016年末現在、スロベニアでは147万台の車両が登録されており、自動車の所有率は1000人あたり523車と世界最高レベルであり、昨年の新車販売台数は史上最高の74000台を記録した。なお、自動車の販売代理店等のデータによると、本年8月末現在における電機自動車及びハイブリッド車の販売台数は900台と前年同時期の3倍を記録し、増加傾向にある。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●マグナ・シュタイヤ社、建設許可取得【5日、17】

5日、カナダの自動車大手マグナのオーストリア子会社、マグナ・シュタイヤ(Magna Steyr)社は、環境・空間計画省より塗装工場の建築許可証を取得した。オーストリア南部のグラーツ(Graz)市に拠点を持つマグナ・シュタイヤ社は、スロベニア北東部マリボル市の近くにあるホーチェ・スリウニツァ(Hoče-Slivnica)市に塗装工場を建設する。同社は、環境保護団体から同建設に対する懸念が示されていたが、今般環境省から環境許可を取得し建設許可取得へと繋がった。プロジェクトの第1フェーズ(総額1億6,440万ユーロ)では、2019年10月末までに工場建設を完了させ、400人の雇用を創出する予定。

17日、マグナ・シュタイヤ社は、スロベニア政府と戦略的投資契約および国家援助契約を結び、新規工場の鋳入式を実施した。同式典に出席したツェラル首相は、「政府からのインセンティブ補助金18.6億ユーロを含む本計画では、マグナ社は10年間で100百万ユーロ以上の投資を行い、1,000人以上の雇用を創出すると約束。本計画は、独立後のスロベニアの歴史の中で最大のグリーンフィールド投資である」と述べた。



(Photo: Gregor Mlakar/STA)

た。Lonely Planet は、ヨーロッパの中でもまだ知られざる自然豊かなユリアンアルプスは“山の至福 (mountain bliss)”を与えると評価した。同地域の3分の2はトリグラウ (Triglav) 国立公園として遊歩道や山小屋が整備されており、以前は勇敢な登山家のみが挑戦できたトリグラウ山 (2,864m) も現在は幅広い登山客によって楽しまれている。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

社会・文化・スポーツ

●スロベニアのインターネット利用率79%【8日】

8日、スロベニア統計局はインターネット利用率に関する統計(2017年第1四半期)を発表し、16歳から74歳までの年齢層の79%がインターネットを利用しており、そのうち68%が毎日利用していることが明らかになった。65歳から74歳の年齢層では、前年同時期比10%増加の39%が定期的に利用している。

●2017年ジェンダー平等指標で10位【12日】

12日、スロベニアは、欧州ジェンダー平等研究所による2017年ジェンダー平等指標で100点満点中68.4点を記録し第10位となった。過去10年でスロベニアが最も進歩した分野は「意思決定の地位につく女性の割合」で、2005年の36.5点から2015年の60.6点へと大幅に上昇。その他の平等指標(就労、財政状況、教育、時間配分及び保健等)では大きな変化はなかった。なお、同指標における首位はスウェーデン、最下位はギリシャだった。

●ユリアンアルプス、観光先トップ10入り【25日】

25日、旅行ガイドブック「Lonely Planet」の2018年旅先トップ10に、ユリアンアルプス地域が選ばれ

発見！スロベニア 伝統的なランチ

スロベニアの伝統料理とは何でしょうか。スロベニアは、西にヨーロッパアルプス、南西に地中海地域、北東にカルパチア盆地が広がっており、歴史を通して、その比較的小さな国土の中で、周辺国から海鮮料理やパスタ(イタリア)、ゲーラシュ(ハンガリー)、ソーセージ(ドイツ)、シュニツェル(オーストリア)等カラフルで美味しい食文化の影響を受けてきました。

そして、この多様な料理を楽しむにも、スロベニア人にとって昼食が一日の中で最も重要な食事です。パン付きのスープから始まり、サラダ、メイン料理、

Dober tek!

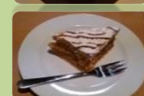
(どうぞ召し上がれ！)



デザートまでゆっくり時間をかけて食べるのが伝統的なランチとなります。今回紹介するのは、リュブリャナ市で手軽に伝統的なランチを楽しめる食堂。日本大使館が

入居するTR3ビル(Trg republike 共和国広場にあるツインタワーの一つ)の一階にあるレストラン Profil。市内に数カ所食堂を持つ ProsperaPlus 社の店舗の一つで、丁寧に調理された日替わりランチメニューは野菜もふんだんに使用して健康的です。今回頂いたメニューは、秋の味覚ポルチーニと卵の炒め物でした。メイン料理として他にもスズキのホイル焼きやポーク・シュニツェルもありました。

特別ランチセットにはスープ、サラダ、デザートがついてきてお得な7.60ユーロ！日本の定食屋さんのようにサービスも比較的早く一時間の休憩時間にフルコースが楽しめますので、ぜひ大使館の近くにいらした際は寄ってみてはいかがでしょうか。



15年ウェ이터を努めるエミールさん、仕事の醍醐味はレストランの立地柄、国民議会や大統領府などからの著名なお客さんに出会えることだそうです。レストランから隣のツァンカルイェヴ・ドム (Cankarjev Dom) 会議場に繋がる秘密のドアも見せてくれました。

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第6回「エディ・シムチッチ Edi Simčič」

エディ・シムチッチ(Edi Simčič)は、イタリア国境に接するスロベニア西部の丘陵地帯ゴリシュカ・ブルダ(Goriška Brda)に位置するプレミアム・ワインの製造に特化した家族経営ワイナリーです。

同ワイナリーでは、白では同地域及びイタリア側のフリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州を中心に栽培されている固有種のレブラ(Rebula)やマルヴァジア(Marzemino)をはじめ、シヴィーピノ、シャルドネ、ソービニオン、赤ではメルロ、カベルネ・ソービニオン、カベルネ・フランを栽培しています。

ゴリシュカ・ブルダの地名にある「Brda(ブルダ)」は「丘」を意味しており、長い日照時間、塩分やミネラルを豊富に含んだ土壌、アドリア海から流れ込む暖かい空気とユリアン・アルプスから吹く冷たい風が混ざり合う気候が、ワイン栽培に適した他には見られないテロワールを形成します。



同ワイナリーでは、白では同地域及びイタリア側のフリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州を中心に栽培されている固有種のレブラ(Rebula)やマルヴァジア(Marzemino)をはじめ、シヴィーピノ、シャルドネ、ソービニオン、赤ではメルロ、カベルネ・ソービニオン、カベルネ・フランを栽培しています。

エディ・シムチッチで特に力を入れているレブラは、比較的シンプルな風味で知られていますが、樽熟成にも適して、より深い味わいのワインに変貌します。同ワイナリーの誇る「Triton Lex」は、レブラ、シャルドネ及びソービニオン・フランを等分にブレンドし、最初から小樽で発酵を行った上で、1年間シュール・リー(発酵終了後に澱引きをせず、タンク内で数ヶ月間静置し、その上澄みを瓶詰めする)手法で熟成され、深い黄金色で複雑且つ深みのある重厚な味わいです。

ゴリシュカ・ブルダの緯度は、フランスのボルドー地方とほぼ同じで上質なメルロの産地としても知られています。同ワイナリーでは、メルロ、カベルネ・ソービニオン及びカベルネ・フランをブレンドし、フランス産オーク樽で3~4年熟成させた伝統的なボルドー・スタイルの赤ワイン「Duet Lex」、そのなかでも厳選された樽のみを瓶詰めした「Kolos」も製造しており、専門家からも極めて高い評価を受けています。エディ・シムチッチのワインは、日本では「ヴィノ・ハヤシ」社が扱っています。

HP: <http://www.edisimcic.si/>
<http://store.vinohayashi.jp/products/list75.html>



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●若手現代アーティスト交流展「境界を越えて」

日本・スロベニア外交関係樹立25周年を記念して、両国の若手現代アーティストによる交流展を開催します。開催期間中は、アーティストらによるトークショーや子供向けアート体験、琴演奏等のサイドイベントも予定しています。

○会期: 11月23日(木)～12月6日(水)※初日は19:00～開会式典

○場所: リュブリャナ市庁舎内アトリウム (住所: Mestni trg 1, Ljubljana)

○参加予定アーティスト(敬称略):

朝比奈賢, 金子牧, 鷺見鋼一, 利根川佳江, 丸山数理, 宮塚晴美

Klemen Brun, Maša Gala, Bojana Križanec, Jože Šubic, Etko Tutta

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が多発しています！

リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が多数発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城、ポストイナ洞窟でも被害が発生しています。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入らず、異変を感じたらすぐに確認してください。